

司馬遼太郎さん名付けた「喫茶美術館」

東大阪市の路地裏に、美術鑑賞を楽しめる喫茶店がひっそりとたたずむ。その名も「喫茶美術館」。名付け親は近所に住んでいた作家の故司馬遼太郎さんだ。玄関先には司馬さんが揮毫した看板。店内には司馬さんの「街道をゆく」の挿

絵で知られる故須田剋太さんの力強い絵と、人間国宝の故島岡達三さんの素朴な

「東大阪の文化拠点に」

——店主の丁さん

民芸陶器が並ぶ。人々は席を離れて作品に見入ったり、静かに本を読んだりして、思い思いに時を過ごす。司馬さんも生前、多い時には週1回ほどのペースで訪れていた。

在日コリアン3世の店主丁章さん(45)は16年前、父親から引き継いだ。詩人でもある丁さんは店を営みながら、在日コリアンをテーマにした詩を多く発表して

いる。「ここは自分も落ち着く書斎のような空間。私は『洞窟』と呼んでいます」近くでお好み焼き屋を営んでいた丁さんの両親は、将来美術館を開くことを夢見て島岡さんの作品を収集していた。絵も集めたいと

考えた両親は、近所付き合いがあった司馬さんに須田さんの絵の入手を相談した。「私が肩入れしている在日コリアンの家族が、あなたの絵で美術館をつくりたいというので、かなえてほしい」。司馬さんは須田

さんに依頼。両親の熱意に打たれた須田さんは、次々と自作を送った。両親は集めた絵や陶芸作品を展示する喫茶店を1988年にオープン。現在、計約800点の絵と陶芸作品を所蔵し、うち約100点を展示したり、食器として使用したりしている。

オープン当時、現店主の丁さんは大学に入学したばかり。在日コリアンであることに悩んでいた彼にとって司馬さんは「遠い存在」だった。司馬さんが亡くなり、自らが詩人となった今、「在日コリアンにも深い思いを持ってくれた人でした」と振り返る。

店には司馬さんや丁さんのファンら多くの人が訪れ、演奏会や詩の朗読会も開かれる。「この店は私の家族と司馬さん、須田さんとの出会いの証し。東大阪の文化の拠点として、多くの出会いが生まれる場であり続けたい」と丁さんは語った。

陶器、絵画… 豊かな空間



美術鑑賞を楽しめる喫茶店「喫茶美術館」と、店主の丁章さん(東大阪市内)